

F-29 *taboo* よりみる日本人の生活慣習 — 埼玉県秩父郡大滝村の場合 —  
お茶の水々大家政 ○根笈美代子

目的 本研究の目的は、*taboo* (禁忌) より日本人の生活慣習のあり様をみることにあ  
る。そこで、現在を、*taboo* がどのような形で行なわれ、どの程度生きていて、どのよ  
うな年齢、性、職業、地域に受け入れられているか等について、大滝村の3部落の実態調  
査よりみる。

方法 昭和52年9月22日から26日まで(第1調査)、滝平、滝え沢、鶴平に於て、約30名  
の面接調査をおこなひ、秩父全体及びこれらの部落に伝わる*taboo*, 予兆, まじない, 民間  
療法などを採集した。それらの資料をもとに同年12月10日から15日まで(第2調査)、*taboo*  
123項目(忌まれる行為のみ)にしほり、16歳以上の男女、110戸、235人を対象に、アンケ  
ート調査をおこなった。調査用紙の作成には、昭和24-25年の全国慣習状況調査資料の分  
類法を用い、記入法については、1昔からよく聞いていて、実行している。口昔からよく  
聞き、実行していないが気にかかる。ハ昔からよく聞くが、実行していないし、気にもし  
ていない。ニ聞いたことがない、のうちノつに○を記入させた。

結果 1) *taboo* の形として123項目中、禁止の理由を示していないものが56%、示してい  
るものが36%、その他が8%である。2) *taboo* の浸透については、実践型の率は、男性よ  
り女性の方が、低年齢者より高年齢者の方が、地域としては最も奥まった滝え沢が高いが、  
しかし個人差も相当あることがわかった。3) 「葬式の忌、死のけがれ」に関するものが根  
強い。4) 生業関係の*taboo* については、実践型の平均は21%で比較的低い。

以上、*taboo* は生活慣習として重要な要素であるが、弊害については今後の課題とする。